

東北公益文科大学大学院

GUIDEBOOK 2024



「学」と「社会」と結び付け、
公益社会を実現する

公益学研究科 公益学専攻 修士課程

公益学研究科 公益学研究専攻 博士後期課程

社会変革期に求められる学際的な知識、スキルを修得し、 公益社会実現に向けた研究に取り組む



公益学研究科長
武田 真理子

山形県庄内地域の産業界、自治体、市民の応援と協力を得て、東北公益文科大学大学院が鶴岡市に開設されてから18年が経ちました。世界で唯一の公益学の研究・教育拠点として、これまでに165名の公益学修士と5名の公益学博士を輩出しています。修了生は大学院で修得した専門知識と研究成果を活かし、行政、民間企業、NPO法人、教育機関をはじめ、様々な現場で課題解決に取り組み、活躍されています。

2022年度（令和4年度）からは、公益社会の実現に向けた「学」と「社会」を結びつけるための大学院改革に取り組んでおり、公益学研究科ならではの学際的な研究、地域連携・社会連携に基づく実践的な学びに取り組む大学院生への丁寧な指導と、きめ細やかな支援のための体制を強化しています。社会が大きく変革している現在、生涯にわたり学び続けること、そして自身の問題意識に基づいて研究に取り組むことの意義が高まっています。是非、本学大学院の資源を最大限活用し、皆さんの未来を切り拓いてください。

◆学際教育・学際研究を実現するための研究指導体制

修士課程には、組織経営領域、国際関係領域、情報科学領域、地域共創領域の4つの研究領域があります。自らの専門とする領域を選択し、研究の柱となる学問への理解を深めるとともに、それ以外の領域の科目も履修（クロスオーバー履修）することで、学びの幅を広げます。研究の中心となる「演習」については、1年次に異なる専門の教員2名以上から指導を受けることが可能です。博士後期課程では、教員3名によるグループ指導を行います。

◆産学官の連携による研究・プロジェクトにより地域課題解決を目指す

修士課程には「プロジェクト科目」を設け、産学官の連携・協働に基づく共同研究や課題解決プロジェクトへの参画を通して、課題の解決に必要とされる異なる主体との共創力、実践力、異文化や多様な価値観に対する理解力、プロジェクトのマネジメント力を身に付けます。

◆修士課程にスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程を設置

全ての子どもが通う学校を基盤とし、自治体や児童相談所など複数の機関と連携して児童・生徒の抱える問題を解決に導くスクールソーシャルワーカー。児童・生徒支援の新たなシステムとして政府は人員を増やす方針であり、本学大学院では、修士課程にスクールソーシャルワーカーを輩出する教育課程を設置しています。所定の単位を修得し修了した方には「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程修了証」が交付されます。

◆多様な学び方が可能

平日の夜間や土曜日を中心に授業を開講しています。「長期履修制度」や相互にやりとりをするオンライン授業も整備しており、働きながらも研究に勤しむことができる環境があります。

入学者には大学を卒業したばかりの若者だけでなく、働きながら学ぶ方も多く、多様な職業の人と共に学びを深めます。

大学設立宣言、使命・理念、教育研究上の目的

下記 URL 先では、詳しい内容をご覧ください。

大学設立宣言 https://www.koeki-u.ac.jp/about_us/univ_declaration.html

理念・使命 https://www.koeki-u.ac.jp/about_us/philosophy.html

教育研究上の目的 <https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/faculty/>



大学設立宣言



理念・使命



教育研究上の目的

修士課程

◆ディプロマ・ポリシー

必要な単位数を修得し、次の知識・能力を身につけた人材に学位を授与します。

DP1 課題の研究に必要な専門知識及びディシプリン

DP4 社会的責任・異文化・多様な価値観に対する深い理解力

DP2 自ら課題を発見し、課題を客観的に分析し、仮説を構築・検証する能力

DP5 既存のシステムに囚われず、新たなしくみを提言できる力

DP3 課題の解決に向け多様な主体と対話し協働する能力及び社会を先導する力

◆人材育成像

知的基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材

社会変革における課題解決及び価値創造に求められる、公益学を構成するディシプリン、データサイエンス等の基本的リテラシー、多様な主体との対話と協働の技法を身に付け、以下の4つの研究領域において活躍する人材

組織経営	国際関係	情報科学	地域共創
少子高齢・人口減少社会において、公私を問わず多様な主体の協働による組織経営をリードできる人材	SDGsの達成に向けて多様な主体と連携した国際関係の構築、地域の国際化をリードできる人材	オープンデータ／オープンソースの思想、分け隔てなく情報交換するための意義と基盤技術を理解し、地域のDX推進に貢献できる人材	「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、地域デザインとソーシャルワークの視点から多様な主体と連携した地域共創・地域づくりをリードできる人材 スクール（学校）ソーシャルワーカーの専門的知識、分析力、実践力を備える人材

研究者

公益の視点から新たな学術的知見を開拓・先導する研究者に求められる専門知識、ディシプリン及び研究の方法を身に付け、博士後期課程へ進学する人材

人材育成像に重なるような活躍・キャリアアップ 自己成長 現場の課題解決

大学院修了

研究成果

知識・スキル・論理的思考

専門に囚われない柔軟性

説明・コミュニケーション能力

人的ネットワーク

社会・経済的価値の判断・創出能力

研究(調査・目的)

院生研究報告会

専門科目 選択科目

4つの研究領域 DP1・DP4・DP5を養う

演習Ⅰ・Ⅱ 演習(副)

学修・研究計画書

現場との往復 発展科目

プロジェクト・特別セミナー DP4を養う

専門科目 コア科目

4つの研究領域 DP1・DP4・DP5を養う

共通科目

DP2・DP3を養う

学修支援

- ・平日夜間・土曜日の科目開講
- ・長期履修制度
- ・共同研究室24時間使用可能
- ・研究活動費用補助
- ・致道ライブラリー・データベース
- ・統計解析ソフトの使用 など

DP…ディプロマ・ポリシー
詳しいカリキュラムについては4ページ参照

大学院入学

研究したい
思い

学びたい
思い

問題意識
企業等における
実務経験
学習・生活

現在(大学院入学前)

◆カリキュラム

4つの研究領域とスクール(学校)ソーシャルワーク教育課程

自らの専門とする領域を選択して学問を深く理解するとともに、それ以外の領域の科目も履修（クロスオーバー履修）することで、学びの幅を広げます。

組織経営

国際関係

情報科学

地域共創

スクール(学校)
ソーシャルワーク
教育課程

産学官の連携による研究・プロジェクトにより地域課題解決を目指す

「プロジェクト科目」を設け、産学官の連携・協働に基づく共同研究や課題解決プロジェクトへの参画を通して、課題の解決に必要なとされる異なる主体との共創力、実践力、異文化や多様な価値観に対する理解力、プロジェクトのマネジメント力を身に付けます。

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科と履修交流協定を締結

MBA教育を行う経営戦略専攻（ビジネススクール）と公認会計士等の職業会計人養成のための会計専門職専攻（アカウンティングスクール）を擁する関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科と履修交流協定を結んでいます。指定の科目を履修し単位修得した場合、本学大学院の修了単位に認定されます。

科目区分		研究領域および科目名			
共通科目	必修科目	公益学総論 論文作成法 共創の技法			
	選択科目	情報基礎 統計学 社会調査論 哲学 倫理学			
専門科目		組織経営領域	国際関係領域	情報科学領域	地域共創領域
	コア科目	組織経営研究1 (経済学) 組織経営研究2 (経営学) 組織経営研究3 (組織論) 組織経営研究4 (法学)	国際関係研究1 (国際社会論) 国際関係研究2 (多文化共生論) 国際関係研究3 (文化交渉論) 国際関係研究4 (グローバル・ガバナンス論)	情報科学研究1 (公益情報システム) 情報科学研究2 (人工知能特論) 情報科学研究3 (多変量解析) 情報科学研究4	地域共創研究1 (公共性の社会学) 地域共創研究2 (社会政策論) 地域共創研究3 (ソーシャルワーク論) 情報科学研究4 (地域デザイン論)
	選択科目	組織経営研究a (財政学) 組織経営研究b (会計学) 組織経営研究c (行政学) 組織経営研究d (政治学) 組織経営研究e (公共政策論)	国際関係研究a (移民・難民論) 国際関係研究b (国際法) 国際関係研究c (地域文化研究) 国際関係研究d (地域政治研究) 国際関係研究e (国際経済研究)	情報科学研究a (プログラミング特論) 情報科学研究b (人間工学) 情報科学研究c (情報数理) 情報科学研究d (自然言語処理) 情報科学研究e	地域共創研究a (ソーシャルキャピタル論) 地域共創研究b (NPO・非営利組織論) 地域共創研究c (合意形成・コーディネーション論) 地域共創研究d (スクール(学校)ソーシャルワーク論) 地域共創研究e
発展科目		スクール(学校)ソーシャルワーク演習* スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導* スクール(学校)ソーシャルワーク実習* プロジェクトa プロジェクトb プロジェクトc プロジェクトd 特別セミナーa 特別セミナーb 特別セミナーc 特別セミナーd			
自由科目		教育行政* 生徒指導論* 進路指導論* 教育心理学* 教育相談の理論と方法* 精神保健学* 児童・家庭福祉論* 公的扶助論* 教育学*			
演習科目		演習Ⅰ 演習(副) 演習Ⅱ 修士論文指導Ⅰ 修士論文指導Ⅱ			

*スクール(学校)ソーシャルワーク
教育課程受講者のみ履修可能

カリキュラムポリシー ● <https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/master/policy.html>



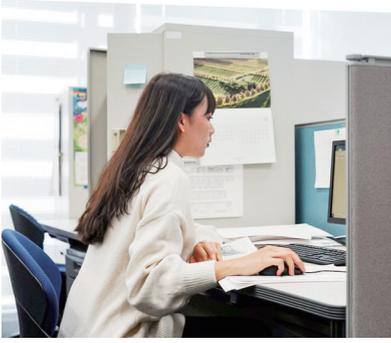
特別セミナー a (庄内地域の課題解決と企業経営)

2022年度は、大学院生以外に、企業経営者、金融機関職員、商工会議所・商工会職員、農家など多様な社会人が受講。地元企業の協力を得て講義や企業見学による学修を行った上で、職場環境づくり、農業法人化、再生可能エネルギー、庄内発工業製品のブランド化の4つの研究課題を抽出。個人研究、グループワークによって解決策の提案をまとめ、発表・共有しました。



プロジェクト a (パートナーシップに基づく地域課題解決の推進)

2022年度は、人口減少と過疎化が進む鶴岡市朝日中央地域をフィールドとし、若者、女性を含めた多様な住民が気軽に対話できるワークショップの企画と運営、そして住民が朝日に関する情報を共有、記録し、広く世界に発信して行くためのWeb上のプラットフォーム「朝日特設サイト」を開設。朝日の地域づくりや課題解決のプロセスの重要な「インフラ整備」として、大学院だからこそ専門的、実践的な学びを拓きます。



◆学修・研究のステップ

- 共通科目(必修)
 - － 論文作成法
 - － 共創の技法
- 共通科目(選択)
 - － 統計学
 - － 哲学 等
- 専門科目(コア・選択)
- 発展科目
- 演習Ⅰ／演習(副)

- 共通科目(必修)
 - － 公益学総論
- 共通科目(選択)
- 専門科目(コア・選択)
- 発展科目
- 演習Ⅰ
 - － 調査等の実施

- 専門科目(コア・選択)
- 発展科目
- 演習Ⅱ
 - － 調査等の実施
 - － 修士論文の執筆
- 演習Ⅱ
 - － 修士論文の執筆



- ・年に2回の院生研究報告会において発表を行い、多角的な視点で問題を見つめ直します。
- ・春学期入学・標準修業年限2年の例です。3年間、4年間の履修も可能です。

◆指導体制

研究の中心となる「演習」については、1年次に異なる専門の教員2名以上から指導を受けることが可能です。

◆近年の修士論文のテーマ

「災害時の児童の避難行動について行政が果たすべき注意義務は何か 一大川小学校津波訴訟を手がかりとして」
 「明治後期における教育と公益 一齋藤七郎を事例として」
 「日本のフェアトレード市場拡大のための一考察」
 「高齢ドライバーを対象としたモビリティマネジメントに関する実践的研究」
 「教育現場におけるスクールソーシャルワークの専門性の理解促進に関する研究 一山形県と岩手県におけるスクールソーシャルワーカーの活動実態の比較分析を中心に」

◆長期履修制度

仕事や家庭の都合で標準修業年限の間に修了が難しい場合、申請が認められると在学を3年または4年に延ばすことができます。授業料は2年分を各年次で分割納付するため、経済的な負担も軽減します。(施設整備費および保険料は対象外)



◆修了要件

以下のすべての要件を満たした方に「修士(公益学)」の学位を授与します。

- ・本学大学院修士課程に2年以上在学すること
- ・入学時のカリキュラムに基づき、合計30単位以上修得すること(科目区分ごとの要件あり)
- ・在学中に修士論文を執筆し、修士論文審査・最終試験に合格すること

◆免許取得・教育訓練給付制度

中学校教諭専修免許(社会)・高等学校教諭専修免許(公民)

一種免許状を有している方が必要単位数の修得・課程修了をすると、申請により取得することができます。

教育訓練給付制度

本課程は厚生労働大臣より「教育訓練給付制度」の講座指定を受けています。対象の方が申請することで、最大100,000円の給付を受けることができます。



修士課程 スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程

◆スクールソーシャルワーカー (SSWr) とは

子どもに寄り添う、「チーム学校」における 社会福祉の専門職

学校の教員・養護教諭・事務職員、教育委員会等と協働しながら子どもと家庭、学校を支えます。いじめや不登校、その他のさまざまな問題に対し、学校の中にとどまらず、地域の多様な人や関係機関をつなげることができます。

また、学校の教員が授業や児童・生徒への指導という教育者としての本来業務に専念できるようサポートするとともに、子どもが元気に学び、成長できる環境を整えるため、子どもと保護者を学校の中と外の両方から支援します。

◆受講の流れ

本学大学院修士課程に入学し、修士課程の修了を目指しながら、本教育課程科目の単位を修得します。

1年次 春学期 (4月～9月)	1年次 秋学期 (10月～3月)	2年次 春学期 (4月～9月)	2年次 秋学期 (10月～3月)
修士課程・本教育課程の科目履修			
	実習準備・実習		
修士論文の執筆			

◆スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程のカリキュラム

科目名	単位数	履修区分・科目履修の免除			
		SSW 実務経験 2年以上	教職普通免許 保有	社会福祉士 有資格	精神保健福祉士 有資格
地域共創研究d(スクール(学校)ソーシャルワーク論)	2	必修	必修	必修	必修
スクール(学校)ソーシャルワーク演習	2	必修	必修	必修	必修
スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導	2	免除	必修	必修	必修
スクール(学校)ソーシャルワーク実習*	2	免除	必修	必修	必修
教育行政*	2	免除	免除	必修	必修
生徒指導論*	1	免除	免除	2単位以上 選択必修	2単位以上 選択必修
進路指導論*	1	免除	免除		
教育心理学*	2	免除	免除		
教育相談の理論と方法*	2	免除	免除		
精神保健学*	2	必修	必修	必修	免除
児童・家庭福祉論*	2	必修	必修	免除	必修
公的扶助論*	2	免除	免除	免除	必修
教育学*	2	履修推奨	履修推奨	履修推奨	履修推奨

※印の科目の単位は、修士課程の修了単位には含まれません。



櫻井敬子さん

2023年3月修了
公益学部卒業/スクール
(学校)ソーシャルワーク
教育課程 修了生

自分を成長させる「様々な出会い」

私は学校現場に関わりたい・子どもたちに寄り添いたい、という思いをずっと抱いていたため、学部で社会福祉士の資格を取得し、さらに大学院に進学し「スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程」(以下SSW教育課程)を受講しました。

大学院の講義はディスカッションが多く、受講生それぞれが経験を基に意見を出し合うため、刺激的で新たな考え方や視点を獲得することができます。SSW教育課程では、1年次に理論を学び、2年次に実習を行いました。実習ではこれまで学んだ理論と実践をどう結びつけるかを意識して取り組みました。修士論文については、論文の執筆と調査を並行したことでスムーズに進まないときもありましたが、同級生や教員に相談しながら書き進めました。修了者発表では、自分の学籍番号の掲示を見て安堵しましたし、同級生と一緒に乗り越えられたことを大変嬉しく思っています。

修了後は、福祉まちづくりの先進的取り組みを展開している社会福祉法人に就職しました。学び・研究、共創のスキルなどを活かして、地域・社会に貢献できれば、と思っています。

公益大学院には、様々な出会いがあります。人との出会いに限らず、新たなものの見方とも出会うことができます。自分の視野を広げたい人など、ぜひ一度大学院をのぞいてみてください。

博士後期課程



教授 門松 秀樹

博士後期課程について

博士後期課程では、誰かに何かを教わるというよりは、自分が明らかにしていきたいテーマに基づいて主体的に研究を進めていくという姿勢が大切になります。指導教員は事細かに研究に関する指示を出したりはしません。自ら研究に取り組み、その上で指導教員の批評や助言を求め、さらに研究を進めていくイメージです。博士後期課程では、自由度が高く、それゆえに自主性が必要となる研究生を送ることになります。

◆ディプロマ・ポリシー

必要な単位数を修得し、別に定める審査基準による博士論文審査に合格した人材に学位を授与します。

◆人材育成像

公益の視点から新たな学術的知見を開拓・先導する研究者

◆指導体制

「博士（公益学）」が取得できる唯一の大学院です。博士号取得に向けて主研究指導教員1名および副研究指導教員2名から成る研究指導グループの指導により、博士論文を執筆します。学内の「院生研究報告会」だけでなく、学会論文誌への論文投稿や学会発表等を通して研究を深めます。

◆学修・研究のステップ

- 公益学研究科目
- キャリア科目
- 研究指導Ⅰ
 - － ナビ・ミーティング
 - － 研究・調査
 - － 論文執筆
 - － 学会加入

- 公益学研究科目
- 研究指導Ⅱ
 - － ナビ・ミーティング
 - － 研究・調査
 - － 論文執筆
 - － 学術雑誌への査読付き論文の投稿
 - － 学会発表 等

- 研究指導Ⅲ
 - － ナビ・ミーティング
 - － 研究・論文執筆
 - － 博士論文予備審査
 - － (予備審査合格の場合) 博士論文審査



- 年に2回の院生研究報告会において発表を行い、多角的な視点で問題を見つめ直します。
- 標準修業年限3年で修了する場合のイメージです。

◆過去の博士論文のテーマ

- 「自治体の人事システム改革に関する研究」
- 「日本企業における従業員処遇一ケアの倫理による考察一」
- 「ソーシャルビジネスの評価手法と基盤強化に関する研究」
- 「A Post-Implementation Analysis of Digital Transformation Regime for E-Governance in Sri Lanka」
- 「An Analysis of Business Process Reengineering in the Public Service Delivery System of the Government of Sri Lanka」

◆カリキュラム

研究テーマに関する高度な専門知識を身に付けるために6つの科目と、研究者としてのキャリアを支援する科目を配置しています。

科目区分	科目名
公益学研究科目	公益学研究 a 公益学研究 b (公共経済学) 公益学研究 c 公益学研究 d (社会政策) 公益学研究 e (自治体マネジメント) 公益学研究 f
キャリア科目	キャリアディベロップメント
研究指導科目	研究指導Ⅰ 研究指導Ⅱ 研究指導Ⅲ 博士論文指導Ⅰ 博士論文指導Ⅱ 博士論文指導Ⅲ

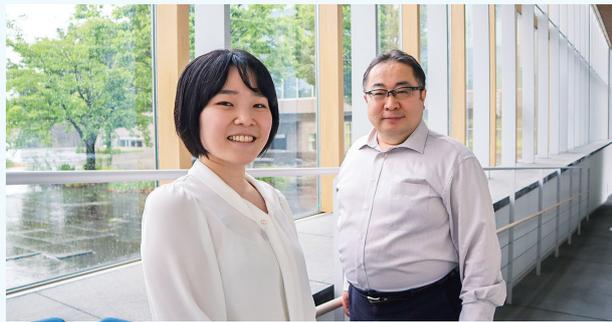
カリキュラムポリシー

<https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/doctor/>



在学生・修了生の声

◆研究領域・演習(ゼミ)紹介



組織経営 領域

修士課程1年 遠藤 咲織さん
[金融機関職員]
教授 三木 潤一
[公共経済学・財政学]

演習の様子を教えてください

遠藤: 私は経済学分野から老後の資金問題について研究を行いたいと考えています。演習では、三木先生より指定された経済学の基本的な図書などを読み進めて、三木先生に解説していただいています。

三木: 経済学の研究は、確立された「ディシプリン」(discipline: ある学問における固有の研究手法)に基づき行われます。その手法に従って研究を進めていくのですが、遠藤さんは、大学時代に異なる専門分野を学んでいたため、入学して間もない今の時期は経済学のディシプリンを身に付けることに重きを置いています。とても大変なことですが、根気強くコツコツ取り組んでくれています。

遠藤: 学部での三木ゼミ4年生で大学院進学を希望している学生さんも私の演習に参加してくれています。同じテキストを使用し交代で発表を行っているため、1人だけでは気づくことができない視点をもつことができ、また意見交換をすることで自分の中で腑に落ちやすくなっていると感じています。

仕事と学生生活の両立はいかがですか

遠藤: 大学院入学前までは支店で接客業務をしていましたが、入学するにあたり本部に異動しました。大学院にいる時間は業務時間として扱っていただいていますし、勤務先から積極的な有給休暇の取得を勧められています。レポートや演習での課題に時間がかかりそうときはぜひ活用していきたいです。また、勤務先からは大学院で学んだことなどを業務に還元してほしいと言われていました。金融機関であるため、経済学を学ぶことはもちろん、統計学や政策などについても深く学び、役立てていきたいと考えています。

三木: 企業の方には修士課程での学修・研究を通して大学院の価値を知っていただきたいです。遠藤さんが勤務先でパイオニアとして活躍することは私も期待していますし、それに繋がるよう、学修・研究をサポートしていきます。

入学検討者へのメッセージ

遠藤: 大学院に入学して初心に帰ることができていると感じています。業務に追われると忘れがちな地域社会のことなどについて考えることができますし、今話題のリスクリング・学び直しということからもおすすめしたいです。

三木: 公益大は地域に根差した教育研究が特色のひとつです。人口が減少し、日本の地域が今後どのようにすれば良いか十分にはわからない状況で、10年後、20年後の地域のあり方について画を描いていかないといけないと考えています。より良い社会をこれから築いていくために公益大大学院で、学術的な背景を持って考えられるよう自己研鑽をして、力を養ってもらえればと思います。



国際関係 領域

修士課程1年 先崎 大裕さん
[公益学部 国際教養コース卒業生]
教授 玉井 雅隆
[国際関係論・多文化共生論]

研究テーマと演習の様子を教えてください

先崎: 学部時代も玉井ゼミでした。卒業論文のテーマが広がったため、修士課程ではその内容のうち、まだ世の中に注目されていない部分にフォーカスを当てて研究することになりました。

玉井: 今の日本は、多文化共生せざるを得ない状況にあります。アメリカなど外国の事例をもとに仮説を立てそれを日本の事例に落とし込み、立証していきます。先崎さんの研究テーマは「実践」はあっても、まだロジカルに構築されていないものです。きっとおもしろい論文ができ、評価されるのではないのでしょうか。

先崎: 今のゼミでは、開始10分はくだけた話をしていますが、その後は真剣な時間です。読んだ本・論文の内容をまとめてきたものをプレゼンし、アドバイスをいただきます。予想外の質問が来ることもしばしばです。

玉井: 意味を問うことが多いですね。その答えは研究に繋がっていきます。ロジックとして不適切と思う部分は指摘しますし、ゼミの中で答えが出なかった場合は、次週の宿題にしています。

先崎: 学部時代も玉井ゼミは学生にとって鋭い質問が多くて、少しは力がついていたと思うのですが、まだまだですね。

玉井: 他大学との合同ゼミもありましたので、先崎さんは研究のベースができていますね。

先崎: 修士課程に入って多くの論文を読む必要があるため、英語に慣れる時間をもっと取ればよかったとも思いました。玉井先生の言葉を励みに研究を進めていきたいです！

公益大大学院の良いところはどこでしょうか

先崎: 研究領域・研究テーマが異なる学生がいることが大変刺激になります。そもそのバックグラウンド・地域・年代・職業などが多様な社会人の方々と一緒に授業を受けているのですが、それぞれの現場で何が起きているのかを大変興味深く聞かせていただいています。社会人の方の要点のまとめ方がロジカルで、グループワークでも無理やりさがなくひとつにまとまっていくため勉強になります。

玉井: 先崎さんも、意識はしていないかもしれませんが、学部のゼミを通してアカデミックな考え方・ロジカルな考え方はできるため、社会人と一緒に授業を受けていても劣ることはないでしょうし、多様な方とミックスされてレベルアップしているかもしれませんね。大学院に入って見識が広がったのだと思います。大学院で出会う人は多くの経験をしていますし、特に院生同士の話は大切です。先崎さんにも人との交流を通して、様々な経験をしてもらいたいです。

先崎: はい、そうですね。それから、致道ライブラリーも便利です。他の大学が所蔵している図書を有料で取り寄せできることは珍しいことではないのですが、慶應義塾の首都圏3キャンパスに所蔵されている図書は、公益大大学院の連携機関ということもあって無料で取り寄せできます！ローカルな地域でも不便を感じることはないです。

玉井: 大学院は鶴岡の中心地にあるため気分転換もしやすい。研究環境としては良いですね。図書も取り寄せでき、多くの論文がウェブでアクセスできますから、都会に行かずとも最新の研究はできます。

先崎: 共同研究室*が24時間使えますし、研究だけではなく必修科目の課題のために遅い時間までいることもあります。環境が整っているからこそできることですね。

入学検討者へのメッセージ

玉井: 人生は回り道をしたほうが楽しいです。見えるものが増える、人生は何倍にも楽しくなります。公益大には様々な教員がいて、「宝箱」のようだと思います。ご自身が深めていきたい分野の教員に出会えると思います。ぜひご自身の手で開いてみてください。

*共同研究室については下記URL先でも紹介しています。
https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/guidebook/gsNewsletter_202301.pdf





修士課程1年 榊原一心さん
[公益学部 経営コース卒業生]
教授 神田直弥
[交通心理学・人間工学]



修士課程1年 後藤真琴さん
[高等学校教員]
教授 呉尚浩
[公益学・環境社会学]

研究テーマについて教えてください

榊原：学部も公益大で、経営コース・応瀬ゼミでした。情報システム関連の企業や異業種を経て、大学院に入学しました。修士課程では、小中学生の情報教育の動機付けを研究テーマとしています。先行研究が多数ある教育学ではなく、心理学からの視点で仮説の立論と検証に取り組みます。

神田：近年、義務教育においても、異年齢教育・協同学習が取り組まれています。授業は、教員・生徒・教材の3つがインタラクティブに関与します。榊原さんの研究は「生徒」にフォーカスを置いています。年齢が異なる生徒と一緒に授業を受けることによる効果はあるといわれていますが、実際には課題もあり難しいものです。榊原さんはより良い教育の在り方を模索していて、私の専門である「心理学」の視点から研究をサポートしています。

演習はどのように進めていますか

神田：入学後、まずは研究テーマを見つけることからスタートしました。先行研究レビューがとても大切で、多くの論文を読んでもらいました。現在は、研究計画を考えていて、そろそろ固める時期です。

榊原：論文などを読んで調べ、レジュメを作ります。そして、演習の中でレジュメに対するアドバイスをいただいています。読んだ論文の中で理解ができなかった部分を解説していただくこともあります。

神田：榊原さんは、社会人経験・実践経験があるため、論文を読むと腑に落ちることが多いと思います。研究において、「体験があること」は社会人学生の強みだと思います。修士課程2年の間には、複数回の実践を通して仮説を検証していきます。

どのようなことに研究のおもしろさを感じますか

榊原：「人の反応」を分析した後、「数字」となって表れたときにおもしろいと感じます。研究にあたっては「尺度」を使おうとしています。先行研究を読み、その尺度に出会えると「先人たちは偉大だな」と思います。また、毎週火曜日に演習をしていますが、終わってから週末までは悩んでいます（苦笑）。2日前にレジュメ作成に取り掛かり、それが完成すると「次の演習で見てもらったなら、どこまで進むかな？」と、緊張よりは楽しみの気持ちのほうが強くなります。

学生生活について教えてください

榊原：私は入学前に「科目等履修生」として5科目履修・10単位を修得しています。そのおかげで、入学後の履修授業・修得必要単位数は同期の学生に比べれば少なく、演習・研究のための時間を多くとることができていると思います。社会人の方にこそ科目等履修を経た入学はおすすめです。

普段は、自宅とキャンパスそれぞれで、授業の課題や研究活動をしています。人目のあるところの方が刺激があって集中できますね。

入学検討者へのメッセージ

神田：公益大大学院の良いところは、研究分野が広いことだと思います。現代社会には、特定の学問だけでは解決できない問題が多数あります。実務をしている社会人の方については、大学院での研究を通して知識・観点を広げられるでしょう。そして、人的ネットワークの幅も広がります。ぜひ知見を深めて、現場で活用してもらいたいです。



演習・研究テーマについて教えてください

後藤：最初のゼミで、呉先生が公益の基本は「いのちを大切にすること」と話されていました。実は私自身が教員として心に留めていることで、それぞれのペースにあることが同じと分かり、嬉しく思いました。

呉：そうでしたね。後藤さんとお話していると、高校と大学の違いはありますが、教育の姿勢や直面している課題についてとても共通点を感じます。演習指導は教員としても気づきが多くありますし、私自身の研究の振り返りのよいきっかけにもなります。

後藤：私は高校教員で、探求型学習が研究テーマです。その学習に「共創」「協働」がキーとなると考え、呉ゼミを選択しました。生徒・学校と地域の方のより良い連携、相互に益となる学習のあり方を構築したいです。具体的なテーマの決定にあたっては、呉先生に相談しアドバイスをいただきながらじっくり考えました。他の方より時間がかかっているかもしれませんが、私自身が納得したテーマへの絞り込みができています。大学院に入学してから感じたのですが、仕事・実務と研究では、必要とする集中力が異なる気がします。「論文作成法」で論文の基礎を身に付け始めた段階なので、これから本格的に研究に取り組んでいくところです。

呉：履修している講義での学びを活かしながら、毎回の演習で意欲的に取り組んでいる姿勢が感じられますよ。大学院で行うことは「研究」ではありますが、アカデミックなことに限らず、後藤さんの仕事の現場に持ち帰って活かすことを意識したアドバイス・サポートをしていきたいですね。院生本人が何を深めていきたいかを一緒に考えながら、その材料提供を心がけています。「地域共創」は、「みんなで悩む場」が必要です。立場の異なる人が、仕事などの自分の枠組みを超えて当事者として関わり、どれだけ課題を共有できるか、地域資源の価値に気づくことができるかという視点が重要です。素敵な共創の場づくりのための工夫について、後藤さんには研究を通して独自のものを産み出してほしいです。

大学院の授業を受けて感じたことを教えてください

後藤：研究に必要な知識・理論・スキルの修得のために、さまざまな科目を履修していますが、私の専門ではないことを知ることがとても楽しいです。「言葉だけは知っている」という物事が、実は身近な生活に繋がっていることに気づきました。演習では、呉先生の専門のひとつである「海ごみ」について問題の責任がどこにあるかを教えていただいたのですが、多くの立場の人がいて、問題が幾重にも重なり合って大変複雑です。法制度の改革などが必要以上に地球規模の構図がとても大きい問題だということを知りました。

共同研究室では、同期とも先輩とも話ができありがたいです。授業の課題レポートについて相談できますし、違う業種の方の話はとても面白いですね。

学術的なことはもちろん、大学院で得られる人脈は本当に貴重で、仕事にも活かされていくと感じています。「学びたい」と思った時に、先生方をはじめ、大学院がここにあることの価値は大きいと思います。

入学検討者へのメッセージ

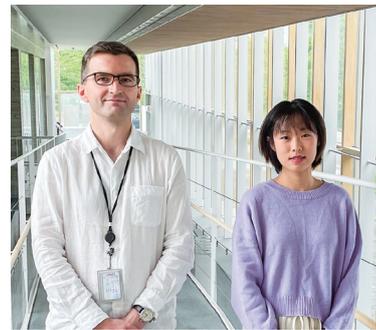
呉：公益大では、開学当初より「多様な主体の共創」「学問の壁を超えること」「地域とのつながり」を大切にして、研究と実践を積み重ねてきました。「地域共創」というキーワードを提唱したのも、公益大が全国の先駆けです。「多様な主体の共創」は、世界の多くの問題を解決するための大きな鍵といえるでしょう。また、大学院では、現場と研究と往復しながら、ひとつのテーマにフォーカスして深く学ぶこともできます。公益大大学院を通して、公益のまなざしで世界を見つめ直してみませんか。





情報科学
領域
外国人留学生

修士課程2年 田 雨 冉さん
[公益学部 国際教養コース卒業生/中華人民共和国出身]
教授 ノヴァコフスキ カロル
[自然言語処理]



入学の経緯と研究テーマを教えてください

田：私は日本に留学し、公益学部の国際教養コースで各国の文化・言語を学びました。当初は「グローバル」「国際関係」に興味があったのですが、留学を通して、母国に関心を持つようになりました。私は、中華人民共和国の少数民族「ナシ族」のひとりです。ナシ族の中でもごく一部の人のみで受け継がれている「ナシ語」とナシ語で用いる象形文字「トンバ文字」はナシ族独自の文化のひとつで、その文化がなくなることは惜しい・守りたいと思い、トンバ文字を情報処理技術によって解析することを研究テーマにしました。約2,600ある象形文字の1つ1つに、アノテーション（意味情報付け）をします。長期的には、私自身の研究成果を通して、他の方の研究や教育を支えることに繋がれば、と思っています。

演習はどのように進めていますか

田：今日は院生研究報告会の発表用スライド作成を進めました。毎回、私が作成した資料を先生に確認していただき、アドバイスをもらいます。ノヴァコフスキ：しなければならぬことを一緒に決めていきます。田さんが研究で立ち止まってしまわないよう、難しいと感じられた部分については解説したり、一緒に検討しています。田：授業は、穏やかな雰囲気、相談が自然とできます。授業前はすごく緊張するのですが、アドバイスをいただき、それまでモヤモヤとしていた部分がスーッと晴れるので、授業が終わるとホッとします。課題もたくさんいただきますけどね（苦笑）。

学部と大学院で違うと感じる部分を教えてください

田：学部の授業にもアクティブラーニング形式はありましたが、それでも「聞く」「知る」という時間が多かったように感じます。大学院では、「田さんはどう思いますか？」と尋ねられることが多く、「別の視点・私の視点を持っていいんだ！」と気が楽になりました。また、学部するときより先生との距離が近く、気兼ねなく相談できています。学部は、先生1人に対してゼミ生が10人程度。大学院はどの授業も少人数ですが、演習の1対1の時間は貴重です。ノヴァコフスキ：「少人数」ということは、学生同士の交流機会が少ない等のデメリットもあるかもしれませんが、教員との時間が十分に確保されることは、院生にとって良いことだと思いますし、私としても、学生が必要とするサポートをしやすいです。

入学検討者へのメッセージ

田：公益大・公益大大学院に「国際」と「情報」の分野があったから、今ここで研究をしています。「これは運命だな」とも思います。公益大には多様な専門分野をもつ先生方がいるため、きっと、みなさんも学び・研究したいと思う分野の先生方に出会えるはずですよ。ノヴァコフスキ：疑問に思ったり、解決したい事柄について、情報科学の分野からアプローチできることもあるはずですよ。学部生の方だけではなく、社会人のみなさんにとっても、大学院はきっと身近な場所だと思います。オープンキャンパスや公開講座などに参加してみてください。

◆ 修士生の声



丸 藤 一 貴 さん
2023年3月修了
[自治体職員]

その結果、一定の結論を導き出すことができ、市の防災行政に研究成果をフィードバックすることができました。このように、実務の現場では時間をかけて考察することが難しい社会問題について、研究者としてじっくりと考えることができるのが、大学院で学ぶ最も大きな利点であると感じています。

公益学研究所は「公益」を研究する場所ですが、「公益」は幅広い概念であるため、様々な社会問題について研究することができます。また、院生同士のディスカッションや、公開講座やセミナーを通して、異なる地域や様々な職業の方と意見交換することもできます。

現在お勤めの企業や官公庁等で問題意識を抱えている方には、問題解決のアプローチのひとつとして「大学院での研究」があることを知っていただきたいと思います。

問題解決のアプローチとして

私は酒田市の防災担当職員として働くなかで、自治体がハザードマップ等を作成する際に考慮すべき内容・範囲について、明確な基準がないことに疑問を抱いていました。これは「住民の生命・身体を守る」という観点からは非常に重要な問題ですが、行政職員としての立場では単一の問題解決に専念することは困難があります。そこで、この問題について腰を据えて考えるため、酒田市の派遣研修の制度を利用して大学院に入学しました。

研究指導（演習）は法学を専門とする教員を選択し、法学の視点から上記の問題について考察を重ねました。



中 村 知 広 さん
2023年3月修了
[自治体職員]

社会人としてある程度年月を過ごし、社会問題についても少しは理解しているつもりでしたが、今まで自分がいかに世間について、偏見と憶測でわかった気になって過ごしていたかを思い知らされるところからのスタートでした。

公益大での2年間は「知らないことを知る」ところから始まる学び直しの時間であり、指導教員をはじめ先生方に支えていただき、他の院生や地域の方々との交流をしながら、社会との向き合い方を考え直す期間でした。少子高齢化をはじめとする社会の変化や国際情勢の緊迫化などを背景に、私たちは今後どうなるのかわからない不透明さの中を生きなければならない境遇にいます。将来がわからない不安に対し、ひとりで悩んだり対処しようとする、地域の中にある大学院を活用し、周囲と一緒に問題について考える人がもっと増えてほしいと願っています。

「知らないを知る」から始める 研究生活

2021年に職場から大学院への入学を勧められてから2年間、私は高齢者の人とのつながりをテーマに研究を進めてきました。入学当初は「修了後に何かひとつくらい人に教えられるくらい詳しくなれたらいいな」と思っていたのですが、実際に研究活動を始めて驚いたのは、「研究の世界は自分の想像以上に広く深い」ということでした。自分の研究テーマに関係するものだけでも先行研究は膨大にあり、それを読み込まなければ、自分は何を、どうして研究しようとしているのかを説明することすらできません。



富 塚 美 咲 さん
2023年3月修了
[自治体職員]

私は、自治体職員として勤務しており、研修派遣として入学しました。日中は業務にあたり、夜間や休日は大学院で講義を受講する日々は、目まぐるしくも私に新たな視点や気づきを与えてくれました。業務の傍らで、業務に関わりのある政策や事業を学術的な観点から研究できる機会はとても新鮮で、普段は実務的にその事業に携わっている私にとって、非常に有意義なものでした。

大学院では、企業や自治体に勤めながら大学院に通う社会人学生、学部から大学院に進学した学生、企業を定年退職後に入学した学生といった、さまざまな立場の学生がともに学んでいます。多くの講義がディスカッション形式で行われるため、お互いの考えを共有する機会が多く、多角的な視点からの多種多様な考えを聞くことで自分の視野を広げることができます。また、自分の研究を進めるうえでは、教員がマンツーマンで指導に当たってくださるため、手厚いサポートを受けながら論文執筆に集中することができます。私は、2年間の研究を通して理論を元にした実践モデルを提案することができました。

私は社会人学生としての入学でしたが、このような経験はとても貴重で、どのような立場の方であっても、きっとご自身の財産になると思います。

多くの出会い、学び、発見がある公益大大学院です。ぜひ一度、足を運んでみてください。

財産となる院生生活

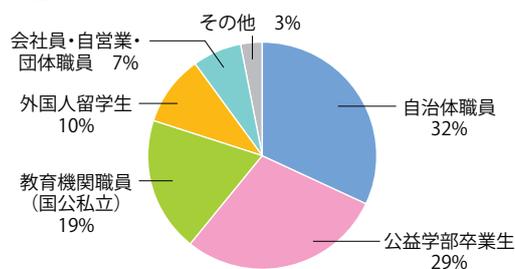
私は、自治体職員として勤務しており、研修派遣として入学しました。日中は業務にあたり、夜間や休日は大学院で講義を受講する日々は、目まぐるしくも私に新たな視点や気づきを与えてくれました。業務の傍らで、業務に関わりのある政策や事業を学術的な観点から研究できる機会はとても新鮮で、普段は実務的にその事業に携わっている私にとって、非常に有意義なものでした。

大学院では、企業や自治体に勤めながら大学院に通う社会人学生、学部から大学院に進学した学生、企業を定年退職後に入学した学生といった、さまざまな立場の学生がともに学んでいます。多くの講義がディスカッション形式で行われるため、お互いの考えを共有する機会が多く、多角的な視点からの多種多様な考えを聞くことで自分の視野を広げることができます。また、自分の研究を進めるうえでは、教員がマンツーマンで指導に当たってくださるため、手厚いサポートを受けながら論文執筆に集中することができます。私は、2年間の研究を通して理論を元にした実践モデルを提案することができました。

私は社会人学生としての入学でしたが、このような経験はとても貴重で、どのような立場の方であっても、きっとご自身の財産になると思います。

多くの出会い、学び、発見がある公益大大学院です。ぜひ一度、足を運んでみてください。

修士課程：2019年度から2023年度春学期までの入学者



公益大大学院での学び・学生生活は、ご自身のワーク キャリアやライフキャリアにどのように役立っていますか？

- 論理的な思考（ロジック、モデル等）や、統計的分析の視点を業務に導入するようになった。
- 学問的な視点から客観的に根拠を持って物事を捉える考え方が身に付き、仕事にとっても役立っています。
- 研究成果が認められ、希望する部署への異動が叶った。
- 講義でご一緒した院生同士の繋がりは、修了後も続いており、業務上のちょっとした相談なども気軽にできています。

研究指導教員

修士課程または博士後期課程の指導ができる教育を掲載しています（職位、氏名、専門）
掲載している教員以外にも、多様な研究分野の教員が、院生の学修・研究をサポートします。
下記 URL 先では、詳しい内容をご覧ください。

教員紹介 https://www.koeki-u.ac.jp/about_us/kyouin/teaching_staff.html

専門分野紹介 <https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/faculty/>

リレーエッセイ <https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/guidebook/>



教員紹介



専門分野紹介



リレーエッセイ



学長・教授
神田直弥
交通心理学
人間工学



研究科長・教授
武田真理子
社会政策
公益学



学部長・教授
三木潤一
公共経済学
財政学



教授
温井 亨
風景計画
建築



教授
澤邊みさ子
社会福祉
障害学



教授
阿部公一
年金教育



教授
呉 衛峰
比較文学
比較文化



教授
呉 尚浩
公益学
環境社会学



教授
松田 憲
応用言語学



教授
古山 隆
リサイクル工学
資源処理工学



教授
広瀬雄二
情報処理



教授
森元 拓
法思想史
法哲学



教授
山本裕樹
物理学



教授
門松秀樹
政治史
政治学



教授
玉井雅隆
国際関係論
多文化共生論



教授
小野英一
人事行政



准教授
松山 薫
地理学



准教授
西村まどか
素粒子物理学
機械学習



准教授
鎌田 剛
経営学
社会福祉学



准教授
植田和憲
コンピュータ
ネットワーク



准教授
白旗希実子
教育社会学



准教授
小関久恵
ソーシャルワーク
社会福祉学



准教授
樋口恵佳
国際法
国際海洋法



講師
ノヴァコフスキ カロル
自然言語処理

学修・研究の支援

◆ 昼夜開講制

平日の夜間や土曜日を中心に授業を開講しています。8月・2月の集中講義とあわせて1年次に共通科目・専門科目の単位を修得し、2年次に研究論文の執筆等に集中することも可能です。

◆ 研究ブース・致道ライブラリー

大学院生には1人につき、ひとつの研究ブース（デスク、書棚、パソコンなど）が用意され、24時間いつでも利用できます。文献データベースの使用が可能で、致道ライブラリーでは他大学の図書の取り寄せも可能です。

◆ 統計解析

調査研究に必要な統計解析にあたり、修士課程には統計に関する科目を設置しています。また、統計解析のソフトウェアも学内で使用できます。

◆ 研究活動の費用を支援

研究基礎補助 …………… 研究の基礎となる活動の費用を補助します。

学会等発表旅費・参加費補助 …… 学会等で研究発表を行う場合の旅費と参加費を補助します。

研究論文掲載料補助(博士論文) …… 博士課程の学位論文予備審査申請等のために学会誌等に論文を掲載する際の掲載料を補助します。

◆ 宿泊費補助制度

山形県庄内地域以外からの通学者については、授業・研究のための宿泊費用を補助しています。

◆ オンライン授業

文部科学省が定める「多様なメディアを高度に利用した授業」として、2016年度から一部の科目でオンライン授業を実施しています。

入学を検討される方へ

本学大学院への入学を検討するにあたり、大学院の授業はどのような様子・内容だろうか、と心配される方も少なくないと思います。ぜひ下記を利用して、大学院での学びをぜひ体験してください。

オープンキャンパス・授業見学

オープンキャンパスへの参加や授業の見学(要事前相談)が可能です。また、一部の科目については、公開講座として地域の方にも公開しています。

教員との面談

本学教員の専門分野は多様です。入学後は研究指導教員から指導を受けながら論文を執筆するため、ご自身の関心がある分野の教員との事前の面談を推奨します。

修士課程 科目等履修生としての入学

正科生としての入学の前段階や準備として1科目から授業を受けることが可能です。正科生と同じようにレポート課題や試験等を経て単位を修得するため、ご自身が関心のある研究テーマについて具体的に検討を進めることが可能となります。

◆ アドミッション・ポリシー

修士課程

- ・国際的な視野を持ち、地域社会及び多様な主体と協働しながら社会における課題の発見と解決、新しい価値創造に主体的に取り組みたいと考えている人材
- ・「誰一人取り残さない」、「自分のため、みんなのため」という価値観を理解し、情報技術の根底にある理論と哲学を柔軟に吸収したいと考えている人材
- ・修士課程での研究・学修に必要な基礎的学力、論理的思考能力、コミュニケーション能力のある人材
- ・具体的には、大学学部卒業生、社会人（ビジネスパーソン、行政職員、地方議員、教員、NPO法人・社会福祉法人等の公益法人職員、自営業者等）、留学生など

博士後期課程

- ・国際的な視野を持ち、日本及び地域社会における様々な課題の解決策を提示し、公益の実現に向け公益学研究の理論化、体系化を図りたいと考えている人材
- ・博士後期課程での研究に必要な高度な専門知識と基盤の実績及び論理的思考力を持つ人材

◆ 入学試験

出願資格や提出書類等の詳細については「東北公益文科大学大学院 入学者選抜試験要項」にてご確認ください

*…最終日必着

日程	出願期間*	試験日	合格発表日	入学手続期間*
第1期	2023年9月1日(金)～10月27日(金)	2023年11月26日(日)	2023年12月8日(金)	2023年12月8日(金)～12月22日(金)
第2期	2023年12月1日(金)～2024年2月2日(金)	2024年2月25日(日)	2024年3月1日(金)	2024年3月1日(金)～3月15日(金)

◆ 初年度学納金

入学金	200,000円
授業料	500,000円
施設整備費	100,000円
合計	800,000円

・入学金の免除について

本学公益学部卒業生または公益学研究科修士課程修了者の合格者：全額免除

社会人特別選抜試験合格者：半額免除

・2年度以降は、授業料と施設整備費の納付が必要です。

・左記の他に保険料の納付が必要です。(2年度分約2,500円、3年度分約3,700円) また、履修する科目で使用する教科書・参考書の購入や、研究に必要な書籍・物品、スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程の実習にかかる費用、フィールドワークの際の交通費等は、院生の自己負担となります。

・科目等履修生として単位を修得した方は、申請により授業料の減免が可能です(上限額あり)。

・分納や支払時期の変更の相談を承ります。

◆ 科目等履修生

正科生以外にも大学院で開講する科目の履修を認める制度です。修士課程の科目を1科目から学ぶことができます。科目等履修生には、複数の科目で1つのプログラムを構成する「履修証明プログラム」もあり、ご自身の仕事等に必要となる理論・スキルの修得に活かすことや、正科生としての入学の前段階にご活用ください。

科目等履修生として単位を修得した後に、本学大学院修士課程に正式科生として入学した場合、修得した単位は正科生の修了に必要な単位として認定し、科目等履修料は大学院入学後に授業料から減免することも可能です。(上限額あり)

◆ 研究生

在学期間は半年または1年です。特定の研究課題について教員の指導を受けます。詳しくはお問い合わせください。

修士課程 科目等履修生

1科目ごと履修

科目 科目 科目 科目

プログラムを履修

履修証明プログラム

科目 科目 科目

科目 科目

科目 科目

試験に合格し入学

修士課程 正科生

・修了要件1(在籍期間)

・修了要件2(単位修得)

科目 科目 科目 科目

・修了要件3(修士論文)

科目等履修にて修得した単位を認定 + 授業料を減免

問い合わせアクセス

- 庄内空港から車・バス約20分
- 鶴岡駅から車・バス約10分
- 鶴岡ICから車で約10分
- 山形駅から高速バス約2時間
- 仙台駅から高速バス約3時間



東北公益文科大学 大学院事務室(鶴岡キャンパス)

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町14-1 TEL 0235-29-0555

HP・URL <https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/>

E-mail gs@koeki-u.ac.jp

本誌の内容はホームページからもご覧いただけます。

また、内容は2023年7月時点のものであり、変更となる場合があります。

